

なな山だより

なな山緑地の会会報 第20号 2010・7

多摩グリーンボランティア講座が開催される

4月24日(土)に第9期多摩グリーンボランティア講座がなな山緑地で開催されました。今回は参加人数が多く、第9期講習生が33名、主催者側は、森木会川添会長、多摩市から3名、なな山緑地の会から7名が参加しました。講座の内容は、例年の通り全員で柔軟体操をした後、高木会長の挨拶と会のこれまでの経緯など、住崎さんから里山を寄付した経緯、農家と里山の関りなど、多摩市みどり環境課から多摩市の緑化政策について、相田さんによるなな山全域の案内、説明、活動状況、植物の解説などが実施されました。午後は、森木会川添会長によるマント群落など雑木林の構造や成り立ちについての講義のあと、アズマネザサの手刈り実習をしました。それから、刈払機の使い方、説明と班別に分かれての実地体験を行いました。

昨年は雨のため室内の講義のみで残念でしたが、今年はお天気に恵まれ、また受講生全員が非常に熱心で、内容の充実した講座になりました。

第9期多摩グリーンボランティア講座の活動記録「樫(くぬぎ)」から、当日の感想文を転載させていただき、講座の反響や効果などを知り、また今後の参考にしていただきたいと思います。(紙面の都合で一部編集しました。ご了承ください)



〔その1〕

府中在住の住崎氏による里山の多摩市への寄付の談話。手入れのよくできている広大な山林を寄付するまでの経過の話であった。よく決心したものと感心する。私の立場であったらどう判断するか迷ってしまうだろう。次にこのなな山緑地を手入れされている「なな山緑地の会」の方々の自己紹介があった。大変な苦労があったものと思う。この広い緑地の保守は多人数のボランティアによるしかないと思いつく思った。里山の案内では3区画をまわった。最初の区画は手入れが行き届いていて地面には日光が当たり、各種の野生ランなどが群生し踏み荒らさないように囲いと植物の名称の立て札がしてあった。盗掘にあわなければ良いのだがと思いつつ拝聴した。

案内の相田さんの博識には驚くばかりである。他の地区は最初の地域とはまるで違い、地面の手入れ、樹木形態の違いが良く分かった。時々、小野路あたりの山を散策するがこんな見方をしたことはなかった。今後は見方が変わるだろう。携帯用植物図鑑とカメラを持ちゆっくり歩こう。

タヌキがいると言われる山はササがかなり生えていて現在手入れの仕方を検討中だという。タヌキに気を使って機械類の使用を控えたいとのこと。面白いと思った。私ならタヌキ汁にするかも？

食の話が出たついでに途中で手のひらの倍はあるシイタケを2個採取、持ち帰り塩焼きにして妻と食べた。香りとジューシーさは懐かしく、酒も進み、ご飯も美味しかった。楽しいとひと時だった。(第1班 N.O さん)



〔その2〕

午後からは、マント群落とソデ群落などで樹林は守られているとお聞きし、実技としてアズマネザサの鎌での刈り方、刈払機の説明、使い方、使用後の手入れの仕方をお聞きする。

雑木林に行き、三班に分かれて、アズマネザサを鎌を土の中まで入れて、切り口が地面と平行になるように刈る。珍しい植物が生えているかもしれないので注意して刈るようにとのこと。赤い実を見つけ報告するとヤブコウジとのこと。早速切った竹で目印をつけてもらい感動する。

続いて、各班で刈払機の説明を受け、全員体験する。斜面に沿って、体を谷足で支えて進んでいくとのこと。

刈払機の使用後は充分汚れを取り、残った油は空けて収納すると長持ちする、使用後の手入れを良く行うことなどを学んだ。

作業終了後、鎌の手入れを行う。鎌の研ぎ方について初回に教えていただいているが、細かいことを忘れていたので、再度説明していただき納得する。(第2班 K.S さん)



<写真> 1ページ上 = 住崎さんのお話 中 = 緑地内の見学 下 = 鎌でササの手刈り実習
2ページ上 = 刈払機の使い方の講習

広げよう会員の和

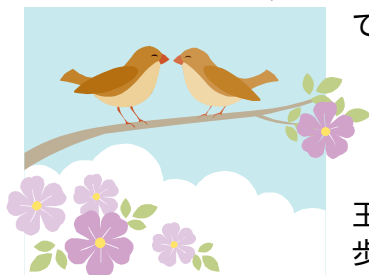
リレー随筆(20)

年輪

小野塚 文男

平成21年12月から、「なな山緑地の会」に入会させて頂きありがとうございます。

趣味は走ることです。動機は運動不足解消でしたが36年もつづいています。ランニング中毒といわれています。旅行などにもランニング用品は必ず携帯し、海岸、港町、城下町、田園などなど、どこでも走っています。



近郊の高尾山～陣場山を走るたびに思っていることがありました。爽やかな森があるのも守っているからで、走らせてもらうだけでは申し訳ない、何か役に立つことはがないかと思い試行錯誤していましたが、京王電鉄で高尾山清掃デーがあり参加しました。走っている登山道路付近は歩いてみると、空き缶、レジ袋、などが散乱していて、提供されたゴミ袋はすぐいっぱいになりました。

「なな山」の一角がきれいに整備されているのは以前から存じておりました。しかし、第8期ボランティア講座に参加して初めてこのフィールドが活動場所に入っていることを知りました。

この地(百草団地)に越してきたのが昭和45年でした。多摩の尾根が一望でき、元旦の初日の出が拝めたものでした。コナラ類は、まだドングリだったでしょうか。あれから40年、木々は生長し、立派な雑木林になりました。

初日の出は見えなくなりましたが、四季の変化が鮮やかになりました。早春の芽吹きが軟らかな色たちです。春告げ鳥の声で春眠の覚醒。こんな豊かな多摩の里山よ、永遠なれ!

年を重ねただけでは人は老いない。

理想を失うとき初めて老いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、情熱を失えば心はしぼむ。



ミツバアケビ アケビ科
Akebia trifoliata Koids.

4月末、春本番ともなると、ミツバアケビが爽やかな緑の三葉の下に濃い紫色の花をつける。花は目立たないが、つるから花柄を伸ばした風雅な姿から茶花に使われる。つるは周囲の木々に高くからみつき、発達して手に負えないほどとなる。雌雄同株でひとつの花序の中の雌花は大きく1~3個、雄花は小さく10個程度。花弁と見えるのはがくで、花弁はない。秋10月頃には実が薄紫色に熟し、たてに裂けて黒い種子とそれを包む白い果肉が露出する。つるは編んで箆などに用いる。



植物の雌雄性を大きくタイプ別にするると下記のようになる。ミツバアケビ

はひとつの花序の中に雌花と雄花をつける雌雄同株であり、2番に当たる。

- 1.両性花:ひとつの花の中に雄しべと雌しべがあるもの=サクラ、ヤマツツジなど。被子植物の70%以上を占め、ごく普通に見られる。
- 2.雌雄同株:ひとつの株に雌花と雄花があるもの=ミツバアケビ、カボチャ、コウゾなど。
- 3.雌雄異株:雄木と雌木に分かれるもの=ヤマゲタ、クロモジ、アオキなど。

1に次いで多く、両性花から進化したものと見られている。遺伝的に決定されている場合(上記)と環境や個体の大きさ年齢などの非遺伝的要因によって変化する場合がある。後者にはウラシマソウ、カエデ属の一部がそれに当たる。



さらに詳しく区別すると下記のように別れる。

- ・雄花+両性花=キチジョウソウ、トチノキ、トウカエデ、イロハモミジ。
- ・雌花+両性花=キク科の植物に多い。
- ・雄花+雌花+両性花=オオモミジ。3番の雌雄異株への進化と考えられているが、



両性花へ戻る場合もあるとされている。

種子植物は動物とは異なる性の多様性を持ち、キチジョウソウやトチノキの花はひとつの花序の下部が両性花で、上部が雄花とされているが、なぜそのようなことがおこるのかは解明されていない。またウラシマソウは、株の小さい時は雄株であり、大きな株に成長した時には雌株となる性転換が行われている。さらに植物によっては集団になったとき、種間交雑、環境に応じた変化など、子孫を残すために、あらゆる試行錯誤がなされているようだ。

< 写真 >

- 上右 = ミツバアケビの雄花(下)雌花(上)
- 中左 = 両性花のヤマツツジ
- 中右 = コウゾの雄花(先端)と雌花
- 下左 = オオモミジの両性花(右)と雄花(左)
- 下中 = トチノキ
- 下右 = ウラシマソウ



2010・4・11(日)晴れ 気温14

新年度スタート。なな山だより19号配布。 参加者15人。
 「作業」ホダ木を運び、菌(シイタケ・ナメコ)の植え付け(写真右)。畑作業、サトイモ・サツマイモの畝作り、ヒノキの皮むき、広場の草刈り、道具整理。
 「観察」見つけた植物 = ナツハゼ、ガマズミ、コバノガマズミ、リョウブ、クマシデ、ゴンズイ、ヤマコウバシ、タマノカンアオイ、ヤマブキ。



2010・4・25(日)晴れ 気温13

ウグイスが鳴き、キンラン、エビネが咲いて春爛漫。 参加者13人。
 「作業」サトイモ植え付け、リヤカー置場ドアペンキ塗り、看板修理、中の山にクヌギ5本植樹、枝打ち、常緑樹間伐。
 「観察」見つけた植物 = ヤマグル、チゴユリ、ウリカエデ、キンラン、エビネ。



2010・5・9(日)晴れ 気温28

植物の新種発見。参加者が多い日。 参加者20人。
 「作業」ジャガイモの芽掻き、肥料やり。広場の草刈り、倉庫整理、植物名札作り、側溝掃除、道路沿い草刈り、伐倒、植物観察。
 「観察」見つけた花 = ハンショウヅル、コバノタツナミソウ(写真右中)、ホソバアマナ、シラユキゲシ、タツナミソウ、ヤマツツジ、キツネアザミ、ミヤマナルコユリ。



2010・5・30(日)曇り 気温15

雨で中止の翌週の活動ながらかなりの人数が集まった。 参加者15人。
 「作業」キャベツの収穫、畑の雑草取り、広場・ノリメン草刈り、道路沿い草刈り、クヌギの苗植え、テーブルの修理、中の山の縦走路の整備(笹の根の除去など)。
 「観察」見つけた花 = サイハイランの群落。

2010・6・13(日)晴れ後曇り 気温26

梅雨入り宣言まえギリギリの活動、夜は雨となる。参加者10人。
 「作業」仮伏せしたホダ木を立て掛ける、カボチャの苗にわらを敷く、東の山の道路沿いの整理・清掃、道路にはみ出した枝の切除(写真左上)、広場・ノリメン草刈り。
 「観察」見つけた花 = ヤブレガサ、コバノカモメヅル、ヤブジラミ、クリ、ムラサキシキブ。



2010・6・27(日)小雨/曇り 気温26

梅雨入りもヘッチャラ13人集合。タマネギ収穫。参加者13人。
 「作業」たまねぎ収穫(約300個)粒は小さいが豊作(写真左下)、サトイモの追肥と土寄せ、雑草取り、広場草刈り、ノリメン草刈り、クヌギ苗畑の雑草取り、西の山・中の山の下草刈り、中の山の常緑樹の間伐。

なな山だより 第20号
 発行
 発行責任者
 住所
 ホームページ
 編集委員

2010年7月11日発行
 なな山緑地の会
 高木直樹
 多摩市和田 1394 13
<http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
 鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

「多摩の里山」は紙面の都合で今号は休載します。次号をお楽しみに。
 梅雨の最中ですが雨の場合、翌週の活動を実施し、休止なしで活動できました。小紙もついに20号となりました。これからも、ご愛読をお願いします。K